

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム市野の家
(ユニット名)	一号館
所在地 (県・市町村名)	静岡県浜松市東区市野町287-1
記入者名 (管理者)	竹下 潤子
記入日	平成 19年 8 月 26 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	”明るい笑顔、優しい対応、家族のぬくもりと心のふれあいを大切に” を理念とし各館に掲示してあります。	○
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に基づき日々努力をしております。	○
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議等で説明し、お話しの中で施設のあり方を理解して頂いております。	○
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	畑の草取りをしていると通りがけに声を掛けて下さいますし、散歩の際も挨拶を交わしたり、お野菜やお花を頂いたりもします	○
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会しております。 老人会にも出席させていただいています。 地域のお祭りにも参加させていただいています。	○ 市野の家でも夏祭りを開催し、地域の皆様、入居者様のご家族をご招待して親睦を図っております。 大変多くの方にいらして頂いて皆様には喜んで頂いております。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	自治会長さんや民生委員さんに、お役にたつことがあれば遠慮なく声を掛けて下さいとお伝えしております。	○	ご家族に急用が出来たり困ったときには、いつでもお預かりします。と声かけをしております。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	取り組んでおります。	○	外部評価を実施することにより長所、短所がわかり改善されることで、さらに向上出来ると思っております。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は回を重ねる程に親しさが増し、たくさんのご意見を頂けるようになりました。	○	
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月1回は長寿保険課、社会福祉課の担当者とお会いして相談やお話をさせていただいております。	○	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者、職員共に理解しております。必要な方もおられますが、活用はしておりません。	○	入居者様の中には兄弟、子供さんの支援の無い方も何人かおられます。金銭管理や身の回りの支援は管理者、職員で行っております。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年開催される虐待防止セミナーに出席しております。職員は虐待、拘束は行わないと正しく認識しており、もちろん虐待は行われていません。	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居希望に対して、ご本人と面接を行い施設内を見学していただき、説明をし、理解して頂いております。	○	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個々の不平不満が等が無いよう、平等に声掛けしております。 月に一度介護相談員さんが来設し、一人ひとりに声かけ、お話しをして下さいます。	○	職員には管理者への報告を義務づけておりますので毎日色々な報告を受けて対処しております。 相談員さんともお話しをし対処しております。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日常の暮らしぶり、健康状態はご家族が面会にこられたときにお話しします。 早く連絡したい場合には電話にて報告します。	○	なかなか面会に来られないご家族には、請求書を送る際に必ずお手紙を同封しております。 こづかい帳は毎月コピーをし、お渡してご確認いただいています。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居の際に不満苦情は区役所、国保連の方に相談できることをお伝えしてあります。	○	運営推進会議などでご意見を頂いております。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各館でのカンファレンスにおける話し合いや月に一度の定例会で、運営に関する説明や意見を聞くようにしております。	○	定例化には、夜勤あけの職員以外は全員出席と義務づけております。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要に応じた対応、調整をしております。	○	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は利用者様全員の名前、性格等を覚えるように各ユニットへ応援という形を取って、馴染みになるようにし、顔を合わせてたときは、名前を呼びかけをするようにしています。	○	職員同士が情報支援をし、普段見なくても顔を合わせたときにコミュニケーションが取れるよう、代わる場合はダメージがないよう努力しています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ内での研修は、勤務を調整し全員参加できるようにしています。又、個々に研修を受けたい職員にも積極的に参加できるように支援されています。	○	定例会では資格を取るための支援があります。 (勉強会等)
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は館長会議や管理者研等で得た情報を職員と話し合い、サービスの向上を図っております。	○	グループワークを行うと、色々なお話しが聞けて勉強になります。 情報を共有できます。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	食事会、カラオケ、ボーリング大会等 ストレスを軽減する為の親睦会を行っております。	○	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の職員の勤務状況、努力を認めてくれている。	○	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居の際、生活歴を分かる範囲でご家族に書いて頂いたものをもとに、ご本人と色々お話して、今後何を求めているのか聞く機会を作る。	○	職員は、話しているときにご本人が席を立たないようにしっかり話を聞くようにする。 周りの職員は他の事をフォローする。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	お話しをしていて、よく頑張って見てあげましたね、と申し上げると泣きだす方もいらっしゃいます。	○	家族の意見を理解し、離れてみると以前よりずっと穏やかな気持ちで会えますよ、と預けることので不安を解消できるようにお話ししております。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族が何を望まれているのか、お話しをしながら対応し、説明をし、安心していただいています。	○	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなり他人の中に入るのでから常に職員が見守り、そばにいて、周りの人たちとの隔たりを除き、馴染んでいけるように支援しております。	○	大体のご家族の願いは、他の利用者の方々と早く仲良くなって欲しい事だと思います。 職員は気持ちが悪くなるように支援します。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護は、してあげているのではなくお手伝いをさせられているという考えで接し、教え教えられる、助け助けてもらう関係を築いていく。	○	職員は入居者一人ひとりの人格を尊重し、プライドを損ねるような言葉遣いや態度に注意する。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	とかく預けっぱなしのご家族もおられます。面会に来られたときは、少しでも楽しい時間を過ごしていただけるよう支援します。	○	家族にとって気がかりなことや、意見希望を職員に気軽に言えるように面会時に声かけをし、連絡等を積極的に行っている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	今までの入居者様とご家族の関係を理解し、ご家族にもご本人の現状を理解していただき、より良い関係を築いていけるよう支援する。	○	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きたい所へお連れしたり、お会いしたい友人がいれば連絡を取ったりする。	○	
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者様が仲良く過ごせるように配慮する。孤立しがちな方は、世話好きな入居者様に仲間に入れるよう手伝っていただく。	○	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院が長引いたりして退去されても、他の入居者様とお見舞いに行ったり、ご家族にはいつでも相談に応じることを伝えております。	○	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日個々に話しかけ、会話するように務めている。困難な場合は良く話し合い検討する。	○	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの情報に目を通し把握し、その人らしく生活できるよう支援します。	○	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日個々の心身状態や行動を観察し、介護記録に記入し申し送り、現状の把握に努めている。	○	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、職員で話し合い、ご本人がより良く暮らすための介護計画を作成している。	○	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に実施期間を明示して、その期間が終了する際にモニタリングをおこなう。状態変化があった場合は随時計画の見直しを行う。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録、ADL表、日々の気づいたことやそれに対する変更を申し送り、情報を共有しながら介護計画の見直しに生かしている。	○	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人、ご家族の要請があればその度、出来ることであれば対応させていただいております。	○	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居者様の生活の安定や拡がりのために、周辺地域の機関からの協力と理解を得られるよう働きかける。	○	次回の運営推進会議には交番、消防、協力医院の参加をお願いしようと思っております。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	特にしていません。 ご本人にリハビリをしたい等の希望があれば、先生と相談しお連れします。	○	
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの担当者の方には、運営推進会議でお世話になっていますが協働はありません。	○	
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	開設時からの協力病院と、夜間の対応をさせていただきます往診専用の病院をご家族に選択していただき対応しております。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に関する診断や治療、対応方法等について指示や助言を頂ける医師の確保をしている。	○	
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	受診時に相談し助言を頂いています。	○	
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院されている場合は、担当ドクターからのお話がある時は同席し今後の事等の方針を御家族と共に話し合います。	○	
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	レベルダウンしてきた段階でご家族や担当医と相談し、今後の方針を決めています。	○	ご家族が病院を希望される場合はグループの病院を紹介しております。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期に向けた支援となりますと先生をはじめ、ご家族の協力も必要ですので十分な話し合いをいたします。ご家族のご希望に沿った支援を行います。	○	
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ケアマネ、相談員さん、ご家族から情報を得て十分に話し合い、入居されてからもご本人とお話しをし安心して暮らせるよう説明いたします。	○	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライド、人格を傷つけない言葉遣いや対応を常に心がけています。	○	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	御本人が何をして欲しいのか、何を訴えたいのかを会話の中で感じ取り、穏やかに生活できるよう支援する。	○	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしく過ごせるよう「ちょっと待って」等、職員優先の言葉を発さず、入居者様優先で、希望に沿って支援しています。	○	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	御本人の希望に沿って行っております。洋服などはご本人の希望通りに、もしくは同じ服を着ない様気をつけております。	○	カット、パーマ、手染め。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は一番の楽しみでもありますので、献立を作る際食べたい物は何かを訊き、季節感を感じてもらえるよう工夫しています。	○	食事をやる作業を、行事の際には皆様と一緒にいきます。普段は、準備、片付け等のお手伝いをして下さいます。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物、おやつは好む物を用意できますが、お酒だけはアルコール依存症の方もおられますのでお出ししません。	○	タバコは、欲しいとおっしゃる方は吸っていただいておりますが、それぞれに病気があったり、禁煙していただいた方もおられます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を作成し、排泄パターンを把握しています。また、トイレで排泄ができるよう声かけ誘導も行ってあります。	○	排泄の誘導、失禁の対応にはプライバシーの配慮をしています。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	朝のバイタルチェックにより体調の確認をし、個々の希望にあわせてゆっくりと入浴できるよう支援をしています。	○	利用者様のプライバシーに配慮しております。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は、自室でくつろぐ方や、リビングにおられる方、外に出て外気浴される方、御本人の過ごしやすいよう支援しています。夜間は、よく眠れるよう室温の調節をします。	○	昼夜逆転にならないよう、一日の生活リズムを作り工夫を行っています。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの役割があり、負担にならないよう注意しながら、職員も感謝の気持ちを伝え、張り合いが持てるよう支援しております。	○	掃除、洗濯物たたみ、食事の配膳、片付け、雑巾縫い等。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段、お金の管理は職員がしており、買い物に出かけたときは可能な方には御自分で支払いをしていただきます。	○	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ストレスが溜まらないよう、散歩に行ったりドライブがてら公園に行ったりしています。	○	大型スーパー等に行き、ドーナツやアイスクリームを食べたり、好みの飲み物を飲んだりします
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間の行事の中で遠出をすることもありますので、御家族にも参加していただくこともあります。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が日常的に電話や手紙を利用できるよう支援しています。	○	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	御家族、友人、知人等、気軽に訪問していただける様居心地の良い雰囲気作りをしています。	○	
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないという事を全ての職員が認識しています。	○	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や日中玄関に鍵をかけない様実施しております。夕方から職員の人数が減った時点で施錠します。	○	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常に利用者を見守り易い位置にいて、所在や様子を確認しています。	○	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居時にお荷物の確認をさせていただき、刃物、ハサミ類はお預かりし、後は様子を見させていただきます。	○	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止の取り組みについて普段から話し合い、万が一の為の対応の仕方等に関する意見を交換しています。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアルがあり、特に夜間は各館の職員が協力しあうように話し合いがなされています。	○	
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災や地震の時の対策については年に2回、訓練計画を消防署へ提出しております。 地域の方々との協力体制はまだ整っていません。	○	3ヶ月に1度程度の間隔で、定例会の終了後に火災報知機の説明点検を行っています。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居時に説明する事と、入居後の状態変化において起こり得るリスクについて御家族と話し合っています。	○	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行い、体調の変化がないか確認しております。 異常を感じた場合は管理者に連絡し指示に従う。	○	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりどのような薬を使用しているか、内容も理解し誤薬等無いよう注意しております。	○	与薬時は、御本人と薬の包みに印刷された氏名を確認する。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員は便秘の及ぼす影響を理解し、3日に1度の便コントロールをし、食事は繊維の多い食事にする様気をつけています。	○	毎日の体操や、散歩で運動するよう支援しています。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口の中の汚れや臭いが生じないように日常的に支援しています。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの摂取カロリーや水分摂取量、栄養バランスを全体を通して把握している。	○	食事量チェックを行い、食欲が落ちている時は状態に応じた食事を用意する。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染対策マニュアルの実施。 通常の清掃でも、手すりの消毒、手洗いうがいを実行している。	○	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎週水曜日には食器、調理器具の消毒を年間通して実施しています。 冷蔵庫の整理整頓、清潔を保つ事にも気を配っております。	○	毎日の布巾消毒。 食事を準備する人は専用エプロン。 食事毎におしぼりを使用しています。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関や建物周辺に花を植え、家庭的な雰囲気作りの配慮をしている。	○	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が落ち着いて暮らせるよう、不快な音、光が無い様配慮しています。	○	生活感や季節感を感じられるよう、壁には職員入居者様手作りのカレンダー、季節の飾りつけがしてあります。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	御自分の居心地の良い自由な場所になるよう、落ち着けるよう、支援しています。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に御家族にお話をして、御本人が使い慣れた物をお持ちいただき、御自分の部屋だと認識できるようにしています。	○	
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は24H行っております。 温度調節も利用者様の状況に応じて行っています。	○	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっており、廊下、居室、浴室内には手すりが取り付けられています。	○	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレは、使用していない時はいつもわかるように開放してあります。 各居室には、ドアに名前を大きく書いたり縫いぐるみをつけたり工夫しています。	○	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外周には花壇を設け、ベンチを置き外の風を楽しめる様に工夫しています。	○	畑の水やりをしたり、草取りをしたり、野菜の収穫をしたり、楽しんでいただきます。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

普段の生活は一人ひとりのペースで過ごしていただいています。毎日の暮らしの中で強制はありません。自室でのんびりしたい方、いつもリビングで過ごしている方、リビングで過ごされている方はゲームをしたり塗り絵をしたり歌を歌ったりして過ごしていただいています。その際はお部屋におられる方にも必ず声かけはしています。又、ストレスがたまらない様に年間行事もたくさん行われます。入居者様も楽しみにしておられます。特に大イベントは夏祭りです。地域の皆様入居者様のご家族をご招待して楽しんで頂いています。あとは春と秋の遠足です。お弁当を持って遠出したりしています。入居者様は大変喜ばれています。